

問 要介護3を予防する施策が必要

答 支援体制の強化に努める

問 介護予防に着眼した取り組み状況は。

答 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施により、生活習慣病などの重症化の恐れがある方に対し、医療機関への受診勧奨や保健指導を個別に実施中。認知症発症のリスク低減や認知機能低下の予防を目的とした認知症予防教室、健康維持や社会参加を促すいきいき体操教室を開催している。保健・医療の専門職が、高齢者の運動機能、口腔機能の向上や栄養改善および認知症予防を複合的に行う生活機能の改善を支



新政とうかい
みかみ おさむ
三上 修 議員



村内の活発な健康づくり活動
(うきうき筋トレサークル南台)

援している。

問 介護保険制度の維持のため、介護保険事業者とかがりつけ医との連携が重要。見解は。

答 村では在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいる。医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療機関と介護事業所等の協働や連携を推進している。高齢者やその家族が安心して生活できる支援体制の強化に努める。

問 真崎古墳群南斜面買い取りは

答 用地取得を見据え協議を再開する

問 令和4年9月議会でも南斜面買い取りについて質問をしている。その時には真崎古墳群や真崎横穴群の文化財としての価値付けを行い、地域と共通のビジョンを持つて整備活用方針決定、計画策定を進める中で土地取得の必要性について協議を行うとの答弁があった。2年が経過したが村としてどのような保存活用を考えているか伺う。

答 真崎古墳群・権現山古墳・曲がり杉・真崎貝塚といった貴重な真崎地区の歴史として一体的に捉え



新政とうかい
おおうち のりお
大内 則夫 議員



細浦から見た真崎古墳群南側斜面

る保存活用を検討しており、地域と共通ビジョンを持つため協議を令和2年度に行っていたがコロナ禍において中断しており現在も協議は実施されていない現状である。村として、真崎古墳群南側斜面の真崎地区における歴史の中の位置付けを明らかにしたいと考える。今後は、地域との協議を再開し、真崎古墳群南側斜面の価値付けを進めていき、用地取得も見据え、保存活用のためのビジョンを地域と共に策定したい。